

「マティアを使徒に選出する」

2023年12月22日

そこで人々は、バルサバと呼ばれ、ユストとも言うヨセフと、マティアの二人を立てて、次のように祈った。「すべての人の心をご存じである主よ、この二人のうちのどちらを選ばれたかを、お示してください。ユダが自分の行くべき所に行くために離れてしまった、この務めと使徒職を継がせるためです。」二人のことでくじを引くと、マティアに当たったので、この人が十一人の使徒の仲間に加えられた。(使徒1:23~26)

使徒たちはエルサレムに近い「オリーブ山」から戻り、泊まっていた家の二階に上がった。この二階は「最後の晩餐」が行われた家ではないか。そこには、イスカリオテのユダを除く、11名の使徒たち、主イエスの母マリアや兄弟たち、そして、ガリラヤから従って来た女たちが集まっていた。その人たちは復活した主イエスに出会い、死を超えて生き給う神を知らされ、敬虔な思いの中で、ひたすら祈っていた。

その頃、120人ほどの弟子たちが集う群れになっていたが、ペトロはその仲間たちに向かって、下記のように訴えた。主イエスを捕えた者たちに手引きしたユダについては、聖霊がダビデの口を通して預言した通り、実現しなければならなかった。ユダは我々の仲間の一人であり、同じ務めを割り当てられていた。ところが、彼は主イエスを売り渡す不正を働いて得た報酬で土地を手に入れたが、そこに真逆様に落ちて、体が真逆二つに裂け、はらわたがみな出てしまった。このことは、エルサレムに住む全ての人に知れ渡った。ユダが落ちた土地は、アラム語で「アケルダマ」つまり、「血の土地」と呼ばれるようになった。ユダに起こったこれらのことは、詩編69編26節に「彼らの宿営は荒れ果て / その天幕に住む者はいなくなりますように」、また、詩編109編8節に「仕事は他人が取り上げるがよい」と預言されているように、アケルダマに住む人はなく荒れ果て、ユダの務めは取り上げられた。ペトロは、主イエスを売り渡したユダの悲惨な末路を語っている。

マタイ福音書は、主イエスを銀貨30枚で売り渡したユダは、主イエスに死刑判決が下ったのを知って後悔し、銀貨を返そうとしたが、当局に「我々の知ったことではない。お前の問題だ(マタイ27:4b)」と言われ、堪えられず、銀貨を神殿に投げ込み、首をくくって死んだと書かれている。使徒言行録は、銀貨で購入した土地の上に落ち、はらわたが流れ出たと書いている。ユダの最期については、歴史的に正確なことは分かっていない。初代教会においては、裏切り者のユダと烙印され、年を経るごとに悲劇的な死に方をしたと加筆されている。ユダは自分の決断によって主イエスを売り渡したが、その彼も、十字架の赦しの中にあると信じてよい。そうでなければ、主イエスを絶えず裏切っている私どもの救いを見ることができないではないか。十字架は裏切る者をも赦す聖なる愛なのである。

ペトロは続いて、ユダがいなくなった今、ヨハネの洗礼の時から始まって、主イエスの昇天の時まで、共に生活した者の中から、誰か一人を加え、主イエスの復活の証人になるべきであると、ユダの欠けを補い、使徒を12人に整えようと訴えた。人々は、バルサバ、ユストとも呼ばれたヨセフとマティアの二人を立てて、「すべての人の心をご存じである主よ、この二人のうちのどちらを選ばれたかを、お示してください。ユダが自分の行くべき所に行くために離れてしまった、この務めと使徒職を継がせるためです」と祈った。そして、くじを引くと、マティアに当たったので、彼を11人の使徒たちに加えた。12使徒という完全な体制を作り、聖霊降臨を待つことにしたのである。